

～市立動物園～

リニューアル工事のため、動物園は休園しています



問市立動物園…

☎055(233)3875

防 御 力 最 大 級 !!

現在、4頭のタテガミヤマアラシを飼育しています。ヤマアラシは、危険な敵が近づくと全身の針を逆立てて身を守ります。防御だけではなく、背中を敵に向けたまま後ずさりして自らぶつかりにくい強いメンタルも持っています。お尻周辺には中が空洞となっている針(通称「カラカラ」)がたくさん生えていて、お尻の筋肉をゆらすことで「カラカラ」と音を鳴らし、敵を威嚇することもできます。

皆さんは、「ヤマアラシのジレンマ」という言葉をご存じでしょうか? “近づきすぎるとお互いの針で傷つけてしまい、一定距離以上歩み寄れない”様子を指しています。実際には、ヤマアラシたちはお互いが針を立てずにぴったり寄り添って寝ていることも多々あります。私たちも見習っていきたいですね♡



休園中の動物たちの様子や最新の情報はコチラから▶

ホームページ Facebook X Instagram YouTube

とびだせ! 市民レポーター!

武田氏の誇る堅牢な山城・要害山城の遺構を辿る



▲要害山城遊歩道入口

山城とは、険しい山の地形などを利用して築かれた城のことです。今回は、甲府市役所歴史文化財課の案内で、実際に要害山城に登りながら、その歴史や遺構について教えていただきました。

◆ 築城の目的と役割

要害山城は、武田氏館の北側に築かれた山城です。1519年に武田信虎公が躑躅が崎に館を移した翌年、緊急時に籠るための詰めの城として築城されました。南は甲府盆地、北は太良峠に続く街道を見渡すことができ、東側には支城として熊城を築くことで、近辺にある水源を敵から守り、確保することができるようになっています。



▲不動曲輪(ぶどうくるわ)から望む甲府盆地。手前には武田神社の社が見えます

当時は政庁と住居を兼ねた「居城」と籠城するための「詰めの城」をそれぞれ築くことが多く、要害山城も武田氏にとって普段の生活を送る場所ではありませんでした。

◆ 詰城としての活躍



▲主郭部に残る2つの大きな石は庭石だったとされています

1521年、今川勢により身延町から現在の南アルプス市あたりまで攻め込まれた際、信虎公は大井夫人を要害山城へ避難させました。信玄公が生まれたのは、このことです。山頂の主郭部は平坦にならされており、屋敷があったことがうかがえます。土塁の跡も残っていますが、西側は開けており、信虎公はここから景色を楽しんだのではないかとされています。その後、甲斐の国が深く攻め入られることはなく、信玄公の時代には要害山城が使われることはほとんどなかったそうです。

◆ 現在も見られる遺構

要害山城は武田氏のアト、徳川や豊臣の時代にも使用されました。現在残っている複数の曲輪跡や門跡の石積などは、その頃のものも多いようです。やがて廃城となり取り壊されてしまっていますが、現在も土塁の跡やつづら折りの通路の名残、石積や竪堀など、多くの遺構を見ることができます。要害山城は、山城としての保存状態が極めて良く、▲門跡の石積と、その奥には段々に作られた土塁があるのがわかります



▲門跡の石積と、その奥には段々に作られた土塁があるのがわかります



要害山をより詳しく

市民レポーターブログ 検索

今月の担当レポーター 若木 千尋

念願だった要害山城の取材、とても楽しかったです。実際に登ってみて、長きにわたる森林保護活動や山の管理により良い状態が保たれている、という印象をもちました。松枯れなど、安全性の問題で入山できなくなってしまう山城跡もあるので、山を管理して下さる皆さまに感謝しながら、今後も史跡めぐりを楽しんでいきたいと感じました。

